



とらいあんぐる



2023 年 4 月

一音会ミュージックスクール発行

「縮図」

人間関係は難しいなあと、いくつになっても思うのです。

私は、人づきあいが苦手です。それが大きなコンプレックスでもあります。

今もひどいですが、子ども時代は特にたいへんでした。

まず、「お友だち」をつくるのに苦勞をします。

そして、「お友だち」ができてからも苦勞をします。

私にとって「お友だち」とは、いても

いなくても、苦勞の多いものでした。

じゃあ、一人でいればいいじゃないか、と思われるでしょう。

でも、一人でいられるほど、心が強くありません。小心なので、「お友だち」がいないことも不安です。

人目を気にするので、ひとりぼっちでいるところを人に見られるのが、とても恥ずかしいのです。



ひとりぼっちを心配されたり同情されたりするのもイヤですが、お友だちができない子であるとか、人に好かれていない子と思われるのはもっとイヤです。

おそろべき自意識です。

私が子どもの頃は、子どもが多い時代でした。ひとりっこがめずらしい時代です。

ひとりっこが目立つせいで、なにかにつけ、「だからひとりっこは・・・」といういわれ方をしました。

良くない意味の時に、しょっちゅういわれるセリフです。その度、ひどく傷つきました。



「ひとりっこの名誉のために、うまく人づきあいをしなくてはいけない」という無駄なプレッシャーを、常に感じていました。

だから、内心「お友だち」を欲していても、がんばって「お友だち」をつくることに精を出します。

つくればつくつたで、気疲れしたりうまくいかなくて悩んだり、イヤな思いをすることも、悲しいことも、たくさんあります。

合わせるのもストレスですが、小心なので、合わせないのもすごくストレスです。

八方ふさがりです。

私は、小学校にあがるまで、幼稚園をサボり、家で毎日、一人で好きなように暮らしていましたから、いきなり集団生活がスタートした小学校時代は、一番、たいへんでした。

でも、私がたいへんだと思っていた以上に、私の「お友だち」はたいへんだ

ったのかもしれませんが。

今になって、そのことに気づき、申し訳なく思います。

そんな小学生の日々、「一人で生きていきたい」と、それはそれは強く思っていました。

今は子どもだから、学校という集団に属さなければならない。でも、いつかおとなになったら、いっさいから自由になろう。一人で働ける仕事をしよう。

そんなふうに思っていました。

誰とも会わず、誰ともかかわらず、自分の好きなペースで働き、ひっそりと生きるのです。

私の夢は広がり、それとともに夢は妙に具体的になっていきます。

箱のような部屋に入って、一人でコツコツと作業をするのは良いな。

誰も住んでいない山奥で何かを作って暮らすのも良いな。

将来をあれこれと夢見ることで、日々の生活に耐えることができました。



ところが、です。

あんなに強く願っていたのに、その願いをおとなになったら完全に忘れていました。

それは、おとなになるまでの間に、人づきあいの困難を克服したように思えた時期があったからかもしれません。

先にもいいましたように、「たいへん」のピークは小学校時代でした。

でも、不思議なことに、小学校から中学、中学から高校、高校から大学、大学から大学院へと、居場所が変わるたび人づきあいは、どんどん楽になってい

きました。

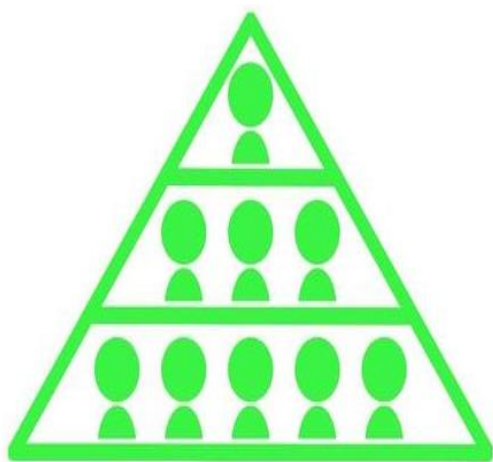
「ああ、私も成長したなあ」と、しみじみ思ったものです。苦勞の末、完全に人づきあいをマスターしたのだとさえ思いました。

加えて、周囲も成長し、お互いにコミュニケーションが上手になっていったのかもしれない、とっていました。

もちろん、それもあったでしょう。

けれども、おとなになって社会に出たとたん、私はふたたび、おなじみのテーマ、「人づきあい」の問題に思い悩むようになるのです。

もはや永遠のテーマであり、ライフワークになりつつあります。



私はひどく焦り、とまどいました。

この件は、学生時代に克服していたはずでは？！

なぜなんだろう???

考えた末、「進学するたび、楽になっていたのは、受験というシステムで、同じような属性の人を集めていたからでは？」と気づくのです。

私の成長なんかじゃありませんでした。とんだ思い違いです。

受験は、家庭の価値観や教育的経済的地位に応じて、子どもを区分けしてしまう働きを持っています。

同じ学校を選んで入学した子どもたちは、同じ価値観を持つことが多いでしょう。

同じ価値観の人とつきあう方が簡単であることは、明らかです。

トラブルありません。理解しあうこともできます。協力しあうこともできます。良いことづくめです。

それとは反対に、むかしむかし、私が

通った公立の小中学校は、選ぶ余地なく、その地域に住む子どもたちが、そのまま入学する学校でした。

その地域を切り取った、まさに社会の「縮図」です。

いろいろな人が同じクラスにいました。

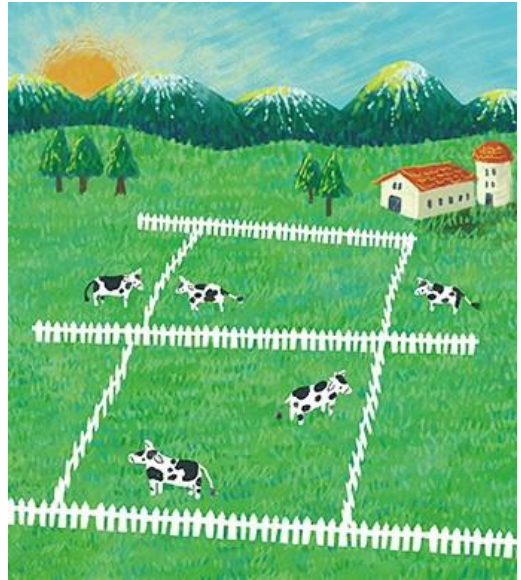
この多様性こそが、人づきあいが難しかった最大の理由であったと、今は感じています。

その証拠に、はじめて入試というものを通して高校に入った時、自分と考えが似た人が急に増えて、人づきあいが楽になりました。

その後も、大学、大学院と、入試を重ねるごとに、より似た人同士の集団になっていきました。最終的な大学院博士課程になると、お互いが分かりすぎて、もはやコミュニケーションの努力も工夫も、いらなくなっていました。

入試を重ねるたびに、どんどん“囲い”が狭くなっています。

最後の小さな小さな“囲い”の中には、“囲い”の外では、やっていけないのではないか、心配になるような人もいました。



選抜によって似た人を集め、集団を小さく囲めば、コミュニケーションが楽になるのは当然です。

生涯、小さな“囲い”の中にいられば、平和でしょう。

問題は、学校時代のような“囲い”が存在しない広い社会では、いろいろな人がいる、ということです。

そこは、社会の「縮図」であった地域

の小学校、中学校に近いかもしれません。

私の母は、人づきあいを学ぶ子どものうちこそ、自分と大きく違う人と接する経験が必要と考え、私が通う学校は、「近所」「公立」「共学」を条件としていました。

その結果、子ども時代の大半を過ごした「縮図」の中で、私がおおいに苦労し、おおいに悩んだのは、最初に書いた通りです。

時代は変わりました。

受験が低年齢化しています。

今の社会を否定するつもりはありません。



はやい段階で受験にのぞむご家庭を否定するつもりもありません。

ですが、今、私がわざわざこのことをいうのは、「受験の結果、予定外の学校望んでいたのと違う学校に身を置くことになっても、それはがっかりすることではない」ということをいいたいのです。

第一志望の学校に行く子は、3人に1人とも4人に1人ともいわれます。

第一志望の学校に行く子の方が、ずっと少ないのです。

それが現実です。

「本当は、ここじゃないのに・・・」と思っている生徒さん。だいじょうぶですよ。

人は、案外、朱にまじわっても、簡単には染まらないものです。

良い学校に行ったからといって、皆が皆、立派な人になるわけではないでしょう？

人は、そんなに単純なものではありません。

ませんね？

どこにいたって、自分は自分です。

新しい環境になじめなくて、困っている生徒さんも、いるかもしれませんね。

だいじょうぶ。そこが社会の「縮図」だと思ってみてください。

人生は学校を出てからのほうが、ずっとずっと長いのです。

そして、社会はいろいろな人がうごめいていて、自分では選べません。

気の合う人とだけつきあっていれば良いなんていう甘い社会はありません。

社会には、自分と大きく異なる人も

います。合わない人も、たくさんいます。

また、おとなになってからの職業によっては、自分と異なる世界を生きてきた人と主につきあわなくてはいけなくなります。

勇気を出して、いろいろな人と接してみてください。

自分とすごく違っている人とつきあうのは、骨が折れることです。でも、それは意味のある経験になります。

学校という“囲い”がなくなった時、そのことが分かります。

新しい環境を切り拓く、すべての生徒さんにエールをおくります。

(江口 彩子)



◆新年度のレッスンはスタートしました

新年度がスタートしました。

明るい春です。この4月は、コロナの影響が少なく、この数年の中では一番、明るい春といえるでしょう。

皆さまにとって、今年度が素晴らしい1年になりますよう、スタッフ一同、全力でご指導にあたらせていただきます。どうぞ今年度もよろしく願いいたします。

皆さまに新年度希望表をご提出いただき、作成いたしました新時間割が、動き出しています。新時間割作成の際には、お時間やコースについて、たびたびご相談、ご連絡をさせていただきました。お忙しい中、丁寧にご対応くださいました皆さまのご協力に深く感謝しています。

新年度がスタートして、生活のタイムスケジュールが思っていた形と違ってしまった方もいらっしゃるかもしれません。皆さまにとって、よりご都合の良いスケジュールになりますよう、引き続き、ご相談にのらせていただきます。何かご不都合がありましたら、ご遠慮なくご相談ください。

ただし、年度がわりの変更と同様、曜日や時間帯を変更される場合、原則として担当も変わってまいります。その点はどうかご了承ください。

レッスン曜日・時間等の変更は、本部にお電話ください【本部：03-5966-7711（担当・伊藤、矢島）】。よろしくお願いいたします。



◆今年度のイベント

この「とらいあぐる」と同時に、年間スケジュールをお配りしています。

なお、教室のホームページには、在会生徒さん用のページがあり、随時、生徒さんあての情報を載せています。以下のQRコードをご利用ください。



年間スケジュールは、そこにアップしていますので、出先で「来週は何週目？」、「次の土曜日は奇数週だっけ？」、「ゴールデンウィーク周辺は、どこがレッスンのお休み？」等と思われた場合に、ご活用いただけたらと思います。

最大の行事である「ピアノ発表会」は、今年も夏におこないます。今年は、7月日程と8月日程があり、開催場所が異なります。よりご都合の良い日程をお選びいただけるよう、幅を持たせました。

7月日程：7月30日（日） 板橋区立文化会館 小ホール

8月日程：8月4日（金）～7日（月） 清瀬けやきホール

8月初旬にご予定がある方や、はやく終わらせて長い夏休みを満喫したい方は、ぜひ7月の日程でご検討ください。

「ピアノ発表会」は、原則、全員参加です。合計5日間、開催しますので、ご都合の良い日を決め、ご予定をあけておいてください。人前で演奏する経験は、ピアノのお勉強には不可欠です。ご協力をよろしくお願いいたします。

この春、ピアノをおはじめてになった生徒さんも、十分、間に合います。毎年、4月に入会した生徒さんも、夏の発表会で活躍してくださっています。

ピアノをおはじめてになっていない小さな生徒さんも、リトミック発表でご出演いただきます。そろそろ練習がはじまることと思います。

「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、追ってお配りいたします。ご不明の点は、本部までお気軽にご質問ください【本部：03-5966-7711（担当・谷口）】。



◆「第17回ジュニア・コンサート」を開催します

「ジュニコン・オーディション」の結果、選ばれた生徒さんによる「ジュニア・コンサート」を、4月28日（金）夕方、「ゆめりあホール」で開催いたします。

出演する生徒さんと曲名は、教室内ポスターでお知らせしています。GWに入る直前の金曜日、レッスンもない日です。皆さまにとって、足をお運びになりやすい日であると思います。ぜひ、足をお運びください。「ゆめりあホール」は、大泉学園駅より徒歩1～2分の、とてもアクセスの良いホールです。

チケットは、「ショパンはうす受付」で販売しています。入場料は、小学生以上の前売りが1000円（当日1500円）、未就学児の前売りが500円（当日800円）です。

◆マスクの着用について

皆さま、ご存じのように、この春からマスクの着用ルールが緩和されています。いよいよコロナからの脱却の 때가来たかと思えますと、うれしくなります。とはいえ、ウィルスが消えてなくなったわけではありませんので、教室は感染防止対策を引き続きおこなっていきます。

生徒さんのマスク着用は、任意です。ご家族の方のご判断にお任せいたします。ただし、生徒さんにお咳などの症状がある場合は、スタッフよりマスク着用をお願いする場合がありますことを、どうかご了承ください。

また、スタッフは今しばらく、レッスン時に原則マスクを着用させていただきます。1つには、生徒さん、ご家族の皆さま、そしてその背後の同居のご家族の方の中に、重症化リスクの高い方がいらっしゃる可能性を考えるからです、加えまして、スタッフ自身が感染を媒介してはならないという思いからです。

この原則は、今後、緩和することになるかと思いますが、4月時点では上記のように考えております。ご理解をいただけますと幸いです。

◆「江口メソード」セミナーを開催します

新型コロナのせいで、ながらくお休みしていましたが「江口メソード」セミナーも春から解禁になります。

「江口メソード」セミナーは、「江口メソード」にのっとして指導をおこなうピアノの先生向けの講座です。以下の日程と内容を予定しています。

4月26日（水）10:30～12:30 「絶対音感」

5月24日（水）10:30～12:30 「相対音感」

6月28日（水）10:30～12:30 「読譜」

場所は「伊藤楽器イトウミュージックサロン船橋」です。

一音会は、「江口メソード」の本拠地として、これからも情報発信をおこなっていきます。

◆今年のサクラ情報（追加）

先月の「とらいあぐる」で、音楽系の学校に無事、合格を果たされた生徒さんの情報を掲載しました。発行後に、新たに合格のお知らせを頂戴しましたので、追加で掲載させていただきます。

埼玉県立大宮光陵高等学校 音楽科 1名

お花が終わったかと思ったタイミングで、「ここにもすてきなお花が！」と発見すると、ことさらにうれしいものです。合格、おめでとうございます。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。